

# 一般会計予算案に対する討論の要旨

3月27日の本会議で平成24年度一般会計予算案に対する表決に先だち、各党派等から賛成・反対の討論が行われました。各党派等がまとめたその要旨を、一定のスペース内で様式は自由に討論の順番で掲載しています。

## 小・中学校費の充実と 民生費39%達成を評価



自民党新政クラブ 新海 栄一(所属6名・賛成)

24年度の一般会計予算は厳しい財政状況の中、前年度より5億3,586万円増の388億6,500万円となり、子どもやお年よりの安全・安心に必要な予算が十分に確保されていると評価致します。

老人医療費、心身障害者福祉費、母子福祉費、保育園費などが含まれる民生費は、151億6,032万円で予算総額の39%に達しております。星野市長以前の市長で、この福祉のための民生費を30%以上計上した市長は一人もおりませんでしたが、星野市長になってからは手厚い福祉政策の充実により30%以上が維持され、今年については39%に達しております。特に保育所の整備を着実に実施し、待機児の解消や、病児保育対策に取り組んでいることが注目されます。本年中に新たに3園の保育所が西側エリアに開園され、さらに中央エリアにも誘致が予定されているなど、保育施設の地域偏在が解消されてきていることを高く評価するものであります。

教育費では久々に小中学校費が社会教育費を上回りました。特に近年では教育費に占める小中学校費は社会教育費を大きく下回っており、平成19年度は小中学校費29.1%に対して、社会教育費は34.4%。20年度は小中学校費26.9%に対して、社会教育費40%。21年度は小中学校費28.9%に対して、社会教育費41.8%と、圧倒的に社会教育費が小中学校費を上回ってまいりました。この社会教育費の増大が、子どもたちの教育環境に大きなしわよせとなり、大人たちが夏の暑さの中、クーラーのきいた涼しい公民館の中で活動している時間、子どもたちはクーラーも無い猛暑の教室で、懸命に勉強するという極めて不公平な状況が生じてまいりました。公民館事業は今までも十分な予算が確保されており、公民館運営審議会だけで300万円も計上されている市は他にありません。今回の公民館予算の削減は、子どもたちの命と健康を守るために、やむをえない措置と考えております。

生きがいセンターについては、その運営内容などについて以前より議会において様々な批判や見直し論議がなされており、それを受けて昨年10月に見直し案が示されました。その後、生きがいセンター利用者の皆様、また多くの方々より、もう少し柔軟な見直しにしてほしいとのご要望があり、担当部、社協、利用者との協議を進めた結果、10月の原案に対して「生きがいセンターもとまち」の継続や、送迎事業の再構築など大幅な復活、見直しが図られました。

346号線は西武国分寺線周辺のわずか500mの未整備のために開通できずにあります。昨年3月11日にはここで大渋滞が発生し、緊急車両が通過出来なくなったことは極めて重大な問題と認識しております。市民の安全、安心と命を守るためにも東京都のご協力をいただき、一刻

も早い完成をお願いしておきます。

北口再開発は、塩谷信雄市長によって開始され、防災都市づくりを目指して計画された国分寺市の最重要事業であります。今後、権利変換、特定建築者の募集並びに決定等と様々な手続きが進行します。ぜひ予定どおり平成29年度の完成を目指していただくことをお願い致します。

## 市民の声が反映される 市政運営に邁進せよ



公明党 さの 久美子(所属4名・賛成)

始めに、長きにわたる予算編成作業にあたっていただいた職員の皆様に感謝申し上げます。

第4次長期総合計画後期1年目の平成24年、臨時財政対策債の借り入れ見送り、財政調整基金の取り崩しを行なわなかったことは評価する。従来から懸案の事業見直しは、この予算編成にあたりやっと着手されたが、団体補助金等、一律に一気に削減した手法には疑問も残る。来年度以降も大幅な削減が必要になることを考えると、さらなる事業の見直しが必要となる。その過程で「市民の声を聞く」ことを怠らないでいただきたい。市民のための事業に市民の声が少しも反映されないのであれば、それはもはや市民のための事業とはいえなくなるからだ。

●行政改革は、財政の厳しき折、さらなる遂行を求める。債務負担行為も長期債務と考え、限度額や期間の設定には圧縮できる可能性がある。来年度以降、その点の努力を求める。

●公共建築物改修計画についての考え方を示されたことには一定評価する。今後、速やかに施設情報を一元化し、それに基づいた市民への説明を求める。

●国分寺駅北口再開発は、平成24年度は「権利変換計画の認可」という極めて重要な年である。市民に情報をしっかりと提示し、ご理解をいただくよう最大限の努力をお願いする。

●情報システムにおいて、管理不適切な実態が明らかになった。そもそも、システムに対する知識も乏しい主管課主導は問題である。専門性の高い情報システムの調達・管理・運用は全庁的に一元管理されるべきであり、適正な管理次第で、いかようにも費用対効果を生む。一日も早いガイドライン等のルール化でコストダウンを図るよう指摘する。

●「外国語版暮らしのガイド作成」は例外なく団体補助金が削減され、市民のための事業が縮小・統廃合される中で、事業の優先順位に疑問を投げかけた事業。他に優先すべき事業があるのではないかと厳しく追求した結果、事業の縮小が提案されたが、市民感情を把握しきれていない事業であったと指摘する。

●「災害に強いまちの実現」のためにも、女性の視点が必要である。避難所の運営・帰宅困難者対応など、男女双方の視点が必要。今後、男女共同参画の視点を取り入れた地域防災計画の見直しをすすめていただきたい。

●高齢者福祉については「地域いきがい交流事業」の再構築が重要となる。いかに利用者の方々に喜んでいただける事業にするかが大事である。「声を聞く」に徹してほしい。

●がん検診の受診年齢引き上げについては、科学的根拠という理由でも、市として一歩後退のイメージは避けられない。なぜ、いまなのか？その疑問は払拭できない。今後は早期発見・早期治療という大目的に向かうべき。

今後、各方面での値上げの中での、市民サービス低下は大変な問題である。市長を先頭に、全職員が一丸となり、あらゆる課題の克服に全力を尽くされることを求め、公明党としての本予算に対する賛成の討論とする。

討論の要旨は次頁に続く▶

## 陳情の審査結果

第1回定例会には陳情14件が提出され継続中の10件と併せて審査した結果、採択1件、不採択8件、継続14件、取り下げ1件となりました。

### 《採択となった陳情》

陳情第24-8号「(仮称)『こころの健康を守り推進する基本法』の制定を求める意見書提出に関する陳情」

### 《不採択となった陳情》

陳情第23-2号「ぶんバス東元町ルートの増便及び時間延長を求める陳情」

陳情第23-3号「リフォーム助成制度の創設を求める陳情」

陳情第23-10号「西国分寺、都有地にサッカーのできる多目的グラウンドの設置を求める陳情」

陳情第23-11号「東元町循環ぶんバスルートの路線の一部を変更し、高齢者施設「さわやかプラザもとまち」前に停留所新設を求める陳情」

陳情第24-5号「国分寺市高齢者生きがい活動支援通所事業等の存続・充実に関する陳情」

陳情第24-6号「高齢者向けの入浴事業と生きがい事業を存続させる陳情」

陳情第24-7号「国分寺市各老人クラブへの補助金削減を従来どおりとする陳情」

陳情第24-9号「生きがい事業に関する陳情」

### 《継続となった陳情》

陳情第23-6号「都民のための食肉処理場を整備するまで八王子食肉処理場を存続させることに関する陳情」

陳情第23-7号「災害時の緊急食糧として家畜を活用する仕組みの構築に関する陳情」

陳情第23-9号「恋ヶ窪地区に集会施設の確保を求める陳情」

陳情第23-14号「議会の改革に関する陳情」

陳情第23-15号「国分寺市プレイステーション(冒険遊び場)増設に関する陳情」

陳情第24-1号「再任用職員にかかわる人件費の削減を求める陳情」

陳情第24-2号「特別職職員の退職金の削減を求める陳情」

陳情第24-3号「ぶんバスの収支均衡型運営を求める陳情」

陳情第24-4号「(仮称)都立・むさしの国歴史博物館の建設誘致を求める陳情」

陳情第24-10号「西国分寺駅から東恋ヶ窪交差点まで府中街道にぶんバス路線を求める陳情」

陳情第24-11号「大気汚染調査は従来どおり年2回実施することを求める陳情」

陳情第24-12号「二重投資を回避すべく新ごみ処理施設を市役所敷地内に早期建設することについての検討を求める陳情」

陳情第24-13号「国分寺市立小学校給食調理業務のアウトソーシングにかかわる陳情」

陳情第24-14号「市立小・中学校、市役所などの市の施設の屋上に、再生可能エネルギー設備の設置を求める陳情」

### 《取り下げとなった陳情》

陳情第23-13号「小金井市との可燃ごみの共同処理に関する陳情」